



厳しい収益環境が続く中において、金融機関の合併や提携がしばしば新聞の紙面をにぎわせています。そこで、今回は、高知の金融機関の動向について、

# 積極的に企業成長促進

読者とお話をしていきたいと思います。

## ■マイナス金利と人口減

読者 全国で、金融機関の収益が悪化していると言われています。それはなぜでしょうか。

支店長 主な理由は二つあります。第1はマイナス金利の影響です。金融機関の大きな収益源は利鞘です。大まかに言うと、金融機関は預金等で資金を集め、その資金を貸し出しなどで運用します。このため、預金金利と貸出金利の差である利鞘が利益となります。日本銀行がマイナス金利を導入して、預金金利と貸出金利の両方も低下しています。しかし、貸出金利の下がり幅の方が大きく、その結果として、利鞘が縮小し、収益が悪化しています。

読者 なぜ貸出金利の下がり幅が大きいのですか。

支店長 預金金利はマイナス金利導入前から0・1%未満でした。マイナス金利と言っても、

これは金融機関同士が資金の取引を行うプロの金融市場での金利のことだけで、預金金利はマイナスにはなりません。もし、預金金利をマイナスにしてしまつと、預金ではなく現金で資金を持つ方が有利になるので、預金者は預金を引き出します。銀行は、預金で集めたお金を運用して利益をあげているので、預金金利をマイナスにすると利益の源泉である預金が流出してしまつたため、マイナスにはできません。一方、貸出金利は、マイナス金利導入前には相応の水準にあったので、マイナス金利導入によって、相対的に下げる余地が大きかったわけです。このため、利鞘が縮小したということです。

融機関は地元企業に県外の企業を紹介するビジネスマッチングを積極化しています。また、少子高齢化が進む高知県では、経営者の高齢化や後継者難の問題も深刻です。こうしたもとで、金融機関は、円滑な後継者への経営のバトンタッチや企業買収など、いわゆる事業承継に関するアドバイスも行っています。

読者 これらの取り組みをどう評価していますか。

支店長 着実に成果が出ています。しかし、マイナス金利に伴って収益力が低下する中で、それを打ち消すほどの収益力向上は実現できていません。このため、これらの取り組みを一段と進めることで稼ぐ力を強化す

読者 第2の理由は何か。

支店長 人口減少に伴う地方経済の疲弊です。この結果として、金融機関の貸し出しが伸び悩んでいることがもう一つの理由です。

## ■金融と経済は車の両輪

読者 高知の金融機関も同じ状況ですか。

支店長 その通りです。読者 では、収益力低下に対してどのような対策を取っているのですか。

支店長 主な対応は二つあります。第1は、貸し出しの積極化です。現在、地元金融機関は、従来取引関係のなかった企業を開拓し、新規の貸し出しを積極化しています。その際、事業性評価に基づく融資（企業の将来性や事業内容を見極めて貸し出しを実行）を活用しています。

第2は、手数料収入の強化です。高知県は地産外産を進めており、この取り組みに沿って、金

るとともに、必要に応じて、業務統合などコストを削減する取り組みも求められます。ただし、業務統合が金融機関の稼ぐ力を損なわないようにすることが必要です。

読者 金融機関の取り組みは、高知経済にとってどのような影響があるのでしょうか。

支店長 地元金融機関が現在進めている取り組みは、高知の企業のビジネスチャンスを増やすことなどを通じて、企業の成長を促します。それによって、県経済のさらなる発展が期待できますし、金融機関の収益力向上にもつながります。このように、高知経済の発展と地元金融機関の業績は、コインの裏表と言っても過言ではありません。

読者 金融と経済は車の両輪ということですね。ありがとうございました。

## 収益力が低下した地元金融機関